

青山幸生の「日々感謝」

発行責任者:滑川市上梅沢396-1
滑川市議会議員 会派・志真会 TEL475-9376

ご挨拶

霜月の候。皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

令和4年9月定例会が9月21日に閉会致しました。令和4年度一般会計予算9月補正額3億3,188万円を賛成全員で可決致しました。補正予算の主な内容は第3弾プレミアム付き商品券発行費に2,800万円、中滑川複合施設管理費及び指定管理委託料614万円、海浜公園整備事業としてオートキャンプ場充実費用1,100万円になります。

9月定例会は決算認定の議会でもあります。計4日間審議を行い令和3年度滑川市一般会計歳入歳出決算認定を致しました。議会内は委員長として決算特別委員会における今後改善を求める事項を水野市長へ提言致しました。今後も引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願ひ致します。



農業の未来は？

農林水産物の輸出を巡る状況については、国内外の需要の変化が課題です。日本国内では2050年に人口が現在より20%減少し、人口1億190万人となります。高齢化率は大きく上昇することから今後、国内の食市場の大きな拡大は見込めないとされています。

一方で、世界に目を向ければ、人口は30%増加、現在の76億人から98億人になり、世界の食市場は日本のマーケットになる可能性があります。

〈私の質問〉 富山県農林水産物等輸出拡大方針では、令和8年度輸出額を120億円まで拡大する目標を掲げています。滑川市の目標はありますか。またどのような水産物や食品を輸出するつもりですか。

〈石井農林課長〉 県は「ワンチームとやま」推進対策本部農林水産物等の輸出促進に向けたワーキンググループにおいて、農林水産物・食品の輸出拡大に向け、輸出型地域商社の設立等について進めているところであります。

本市としての目標は設定していないところではありますが、今後、市内の企業や生産者、関係機関等と情報交換を図りながら、まずは輸出できる農林水産物や生産者などの掘起しに努めてまいります。

〈私の質問〉 農村を守る為にも、稼げる農業でなければなりません。国では輸出拡大実行戦略があります。滑川市版の輸出拡大実行戦略を策定するのはどうですか。

〈石井農林課長〉 令和4年度「ワンチームとやま」連携推進本部において、農林水産物等の輸出促進に向けた連携強化が審議、協議事項として挙がっています。

その中に於いて、県産農林水産物の知名度やブランド力の向上による県民が誇れる県産農林水産物の定着、農林漁業者、加工業者の所得向上及び地域経済の活性化を目指す姿として、県と市町村が連携して取り組むこととしています。

全製造業における食品製造業の出荷額のシェアは、富山県は10%以下であり、その中でも下位グループに入っています。今後も発展に向けて提案します。

次ページに
続きます

農業の未来は？

前頁からの続き

〈私の質問〉輸出拡大実行戦略を市が先に策定し、県に訴えていくぐらいの熱量がなければ駄目だと思いますがいかがですか。

〈石井農林課長の答弁〉 先般、滑川商工会議所ですか、JAに少し情報収集しております、そういう動きをしながら市としても主体にやっていきたいとは考えています。

〈私の質問〉 農家の所得アップにつながればと思い質問します。滑川市の有機農業の現状、また市の主導で有機農業に取り組んでみてはどうか、お願ひします。

〈石井農林課長の答弁〉 市が把握しています有機農業に取り組んでいる経営体は、現在市内に2つあり、JAS法に基づくJAS認証を受け、有機米を栽培されているところあります。

市では、有機JAS認証を受けている経営体に対し、国の環境保全型農業直接支払交付金を有機農業の取組面積に応じて交付し支援しています。また有機JAS認証を受けてはいないものの無農薬栽培等に取り組んでいる経営体については、正確な数は把握していませんが、数件あると聞いています。

〈私の質問〉 先月に有機農業のセミナーに副市長と一緒に出席しました。何か進めたいなというものはありましたか。

〈柿沢副市長の答弁〉 議員からも、ご指摘があったとおり、有機農業がブランド化すれば所得向上につながる。あるいは滑川市でやっていることであれば地域としての魅力にもつながる。有機農業に取り組もうという思いのある個人の方が農業をやり所得アップにつながる。こうした輪が広がることは、すごく大事なことだと思っています。しかし実際に化学肥料、科学農薬を使わずに農業をやっていくというのは大変難しいということは理解しています。

まずは有機農業を取り組んでいらっしゃる市民の方の声を聞き、ときには現場に行って、見て一緒に考える。こうしたところから何が課題か、どうした助言が必要なのか。こうすることを考えながら、一歩一歩取組を進めていきたいと思います。

〈私の質問〉 2050年の持続可能な食料確保を目的に、みどりの食料システム戦略推進総合対策を今年度予算額8億3,700万円かけて行うとし2025年までに100市町村でオーガニックビレッジを宣言しています。市側からこの予算を取りに行くことはできますか。

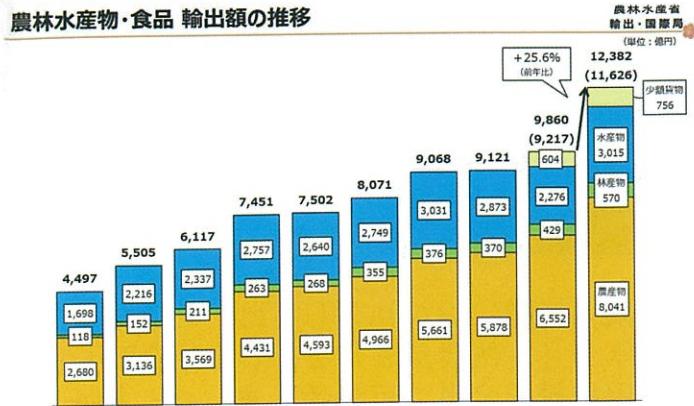
〈石井農林課長の答弁〉 2050年までに全耕地の25%ということを掲げている中で、今後補助金等の情報もしっかり捉えながら進めてまいりたいと考えています。

私の考え方

有機農業とは、科学的に合成された肥料及び農薬を使用しない、遺伝子組み換え技術をしようせず、人体、環境への負担を低減する農業生産方法です。副市長の答弁のとおり、実際に取り組むには課題が多くあります。

議場で紹介した儲かる「西出式」農法を見ても有機農業の土壤づくりには数年を要します。いきなり今日、明日取り組んでほしいと言ってもできないことから将来の農業所得向上や安心安全な食材の確保に向け、早急に検討していただくよう今後も強く促します。

農林水産物・食品 輸出額の推移



国の輸出額目標は2025年に2兆円を目指しています。(農水省HP)



東加積小学校を益々発展へ！

現在、東加積小学校では複式学級が2学級となり、2年生5名と3年生5名で1学級、4年生6名と5年生9名で1学級となっています。児童へのきめ細かな学習を推進するため4年生と5年生の複式学級で副担任を配置している他、2年生と3年生の複式学級では、担任以外に他の教員とスタディ・メイトを配置し複数体制で教育をサポートしています。

今後、人口減少を考慮したとき何も手を打たなければ、東加積小学校の児童数が減ることは間違ありません。今以上に児童数が減れば統廃合の話が当然でてきます。今できる事を諦めず提言していきたいと思います。

〈私の質問〉 小規模特認校制度で校区外から通学している児童は何名ですか。

〈椎名学務課長の答弁〉 小規模特認校制度で現在通学しているのは13名と聞いています。

〈私の質問〉 これも何度も言いますが、小学校がなくなったところは必ず過疎になります。そのためにも、地域に小学校は、できる限り残すべきだと思っていまして、現在の13名の校区外の児童をスクールバスで通える人数だと思いますがどうですか。

〈椎名学務課長の答弁〉 まずこの小規模特認校に入るときは、校長とも面談しています。それで、東加積小学校の少人数、小規模での教育、それについて本人や保護者が納得の上で、通学も各自で行っていただくということを理解していただいた上で現在通学していただいているところです。

スクールバスについては今、運行は考えていません。

〈私の質問〉 課長、その納得の上で、納得できなかった方が来ないわけです。ということは、児童を増やしたいのであれば納得できるようなメニューを増やしていくというのが私は当然の帰結かと思いますが、スクールバス、何とかなりませんか。

〈椎名学務課長の答弁〉 この東加積小学校の特認校制度というものは、通学云々よりも、まずはこの学校の特色、この教育課程というところを望まれて来られるということが、まず第一だと思いますので、通学のことよりはそちらの方を重視していると思っています。ちょっと答えになりませんが以上です。

〈私の質問〉 小規模特認校制度と不登校特例校の両方を開校することは可能ですか。

〈椎名学務課長の答弁〉 不登校特例校については、特別な教育課程を編成して実施する学校であり、特に定員を少数としていることから、個別または小集団での活動なら適応できる児童・生徒が通うことができるという教育上の効果が期待できます。

しかしながら、不登校特例校は一人一人の特性、状況に合わせた指導を行う高い専門性を持つ教員の配置が必要であるなど、運営上の課題も多くあります。センター所長が先進地視察の岐阜市の草潤中学校に行き報告を受けています。少し研究させていただいています。

今年度、市内小中学校に1学期に病気以外で長期欠席した児童生徒数は38名います。長期欠席ではなく、短期の欠席を繰り返す児童は恐らく倍の人数はいるのではないでしょうか。そういうふた児童達が東加積小学校の自然豊かで富山湾を一望できる場所で学習できれば勉強への情熱や学校生活に張り合いが生まれると思います。引き続き要望していきます。





中滑川複合施設(メリカ)完成!

中滑川駅にメリカが建ちました。2021年8月に着工を開始、約1年で建物が完成し、いよいよ11月下旬には飲食ブースの営業開始です。12月にはソフト面のサービスを含めた運用を担う、指定管理者による運営の開始。来年3月には、全館オープンを致します。

ここに至るまでには2015年、1億8,000万円で土地取得。昨年12億6,000万円で建物を建築致しました。私が議員になってから一番の大型予算です。今後の賑わいづくり、防災機能の充実に注視しながらアイデアを提案していきたいと考えています。9月定例会の決算特別委員会にて現地視察をしてまいりました。その概要をご覧ください。



入り口前ロゴ



1F・階段前



1F・シェアキッチン



1F・農産物販売所



1F・飲食店舗



2F・調理スタジオ



2F・ホール



2F・スタジオ



2F 学習室

※3F・は676.3m²の大きな避難スペース(多目的ホール)があります。

口先だけのノーサイドに喝！

ノーサイドとはラグビー用語であり、試合が終了したら、どちらのチーム(サイド)という区別なく同じ仲間であるということを意味します。

〈私の質問〉 市長がSNSでノーサイドと発信したのは、市長当選後、そして私がアルファードのことをSNSに書いた後と、8月15日会派、志真会の会報が新聞折込チラシに入った3回だと認識しております。常々、議案に対して是々非々で対応しています。会派の会報も一緒で、基本的に議場で質疑応答があったものを、そのまま事実を載せています。

それが市長はなぜラグビーの語源、どちらの区別なく同じ仲間であるというノーサイド発信になるのでしょうか。議案は中身で判断するということで、市長、間違いないですよね。その点を確認させてください。

〈水野市長の答弁〉 もちろん、今言われたような形で、議案は中身で是々非々考えていただいてそれはそれで結構だと思います。

〈私の質問〉 3万3,000人の市民が見ているSNSです。市長がノーサイドのSNS発信後、市民から書き込みがありました。「もはや(志真会は)難癖レベル、議会の質が問われています」とこの内容に水野市長は「午前中も数名の市民の方々と意見交換しましたが、皆さん同様に議会のレベルを心配していました」という返答がありまして、これは我々のことを言っているという認識して宜しいでしょうか。

〈水野市長の答弁〉 それに関しては、お互にどういった形で認識されるか。私は私のSNSに投稿しているだけなので、そういった形で考えております。

あと、やっぱり決まったからにはみんなで頑張ろう。そういったノーサイドの精神、私はラグビーをやっていないですけども、そういった精神で今後も進めていきたいなとは思っています。

〈私の質問〉 レベルが低いという事実があるのであれば、それでレベルが低いとはっきり言ってもらえば済む話ですが、(SNS)の表題はノーサイドという文言にレベルが低いと記載されておりました。一体市長の本音はどちらかなと思っています。私にアルファードのことを書かれて、仕様もロイヤルなわけですから、民間感覚なら、食料品の値上げ、資材高騰、ウッドショックの中、住宅ローンで家をためらう時期に、市税で新車購入することが、若い感覚と違うなと反省し、耳を傾けるのが、私は政治家だと思いますが。

〈高橋久光議長〉 青山議員、あまり踏み込んだ質問をすると、この件に関しては個人感情と勘違いされるような点もありますので、そのあたりをわきまえて質問していただくようお願いします。

〈私の質問〉 市民の方々が見ているSNSの話をさせていただいております。こういう状況の書きぶりだと、という話だと思います。その辺を踏まえて、また情報発信していただきたいと思いますが。いかがでしょうか。

〈水野市長の答弁〉 今言われたことを、忠実に実行したいと思います。

水野市長と高橋前議長は都合が悪い質問内容だと上記のように質問をストップします。本来なら議会は議論を活発に行わなければならないと思います。我々議員は皆様からいただいた票を得て議場で質問をさせていただいている。市長と議長に都合が悪いから議論を止められたのであれば、民意が反映されていないのと同様だと思います。

この質問内容は記載しているとおり、水野市長はSNS上で表題はノーサイド。裏面では会派志真会はレベルが低い。と言っているのであり、整合性がとれないと指摘しています。その後発覚した議長問題も含めて、臭いものに蓋をする政治はしたくありません。

自治体DXをさらに前進！

滑川市では前上田市長時代からシステムのクラウド化など様々な自治体DXに取り組んできました。現在の滑川市ではさらに加速度的に自治体DXを進めるために必要な2つの課題を挙げています。

①急速な進捗を遂げるデジタル技術に、迅速に対応し効果的に活用する為には高度な専門知識が必要なこと。

②全国的にデジタル人材が不足しており、国においても積極的な外部人材の任用を推進していることから、優秀な人材を任命すること。

これらを踏まえて下記の質問を致しました。

〈私の質問〉 DX推進本部の設置に於いて、CDO補佐官を外部人材とした理由は何か。また委嘱する方が一番長けているものは何ですか。

〈小川企画政策課長の答弁〉 今回CDO補佐官を委嘱する富山県立大学の岩本先生については、スマートシティの推進に重要であるデータの施策への活用について専門的な知見をお持ちであること、また県のデジタル化推進特命ディレクターを努められており、行政現場におけるデジタル化の課題を幅広く把握しており、県のDX施策との連携も図られていることから、当市のDXの推進を強力に後押ししていただけるものと考えています。

〈私の質問〉 業務効率化を図るために、具体的にどのようなことから進めますか。

〈小川企画政策課長の答弁〉 今後ビジネスチャットツール「LoGOチャット」を市役所職員の間で試行運転することとしてまして、利用の効果と課題を整理し、本格的な導入を検討することとしています。さらにペーパレスの推進についても、順次検討を実施することで、効率的な事務処理につなげたいと考えています。

私の質問〉 よくAIは人間でいう脳、RPAは実際動かすフィジカル空間、すなわち手に例えられます。これはサイバー空間からフィジタル空間にどのように移行できるのか。ITを駆使したものを我々の目に見える形で恩恵を受けることできるかが重要だと考えています。例えば単純にExcelからコピペしているような業務があった場合、AI及びRPAで任せるようにしなければならないけど導入に関してはしっかり精査していただくことで宜しいでしょうか。

〈小川企画政策課長の答弁〉 技術の進化を鑑みながら、今後AI、RPAの導入について検討してまいります。

(編集後記)

日頃より皆様方からの厚いご支援ありがとうございます。

歴史と地理に興味あり、その延長で柳田國男の「地名研究」を読みました。著者曰く、全国的に似た名前が多いとのことでした。例えば箕輪は突出した丘の周囲を取り囲んだ部落の形が、箕の縁に似ている城下の民のこととを言います。滑川市にも蓑輪(箕輪と同じ)がありますのでなるほどという具合です。

地名には先人たちの知恵が詰まっています。地名を読み解けば観光や防災に活用できることから、これから多くのことを習得したいと思います。今後もご指導ご鞭撻のほど宜しくお願ひ致します。



滑川市議会議員 青山幸生



志真会

9月定例会一般質問、ご覧ください。